

小麦「農林61号」と麦類主要品種の出穂・成熟期との関係

田中浩平・大隈光善（福岡県農業総合試験場）

Kouhei TANAKA and Mitsuyoshi OKUMA: Relation between Heading and Maturity Time of Wheat cv. "Norin 61" and Some Wheat and Barley Cultivars

麦類の出穂・成熟期を予測する場合、一般的にデータの蓄積が多い農林61号で算出するが、この予測値が他の品種へ適用できるかどうかが問題となる。本報では農林61号と麦類主要品種との出穂・成熟期の関係を明らかにし、農林61号の予測値の適用性を検討したので、その概要を報告する。

1. 試験方法

解析には福岡県筑紫野市上古賀の旧福岡県農試及び筑紫野市吉木の現福岡県農試農産研究所で1968～'89年に行われた麦類奨励品種決定調査と麦類作況試験の成績を用いた。品種は調査年数が5年以上の小麦7品種、二条大麦5品種を対象とし、品種間相互で比較できるように播種期の差が5日以内の試験を選択した。播種期は11月18日から12月2日であったが、大部分は11月下旬播種であった。

2. 結果及び考察

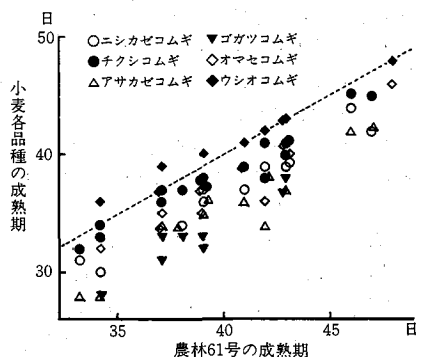
1) 出穂期 農林61号と他の小麦品種との出穂期には、どの品種も高い相関がみられ類似の変動を示したが、品種により回帰式の傾きが異なり、品種間差があるものと考えられた（第1図）。そこで、農林61号に対する小麦各品種の回帰式を求め、相関係数と回帰式の傾きを示した（第1表）。回帰式の傾きは早生種の方が大きく、晩生種に比べて出穂期の変動が大きかった。二条大麦とは相関が低く、二条大麦の出穂期の変動性は小麦とは異なるものと考えられた。なお、あまぎ二条と他の二条大麦品種との出穂期の相関は高かった（データ省略）。以上から農林61号の出穂期から小麦各品種の出穂期を推測しても差し支えないものと考えられたが、二条大麦では二条大麦品種を基準として推測する必要が認められた。

2) 成熟期 出穂期と同様に農林61号と小麦各品種と

の成熟期には、どの品種も高い相関がみられ類似の変動を示した（第2図）。回帰式の傾きは、どの小麦品種も農林61号に比べてやや小さく成熟期の変動は小さかった。二条大麦とは出穂期と同様に相関がやや低く、二条大麦の成熟期の変動性は小麦とは異なるものと考えられた（第2表）。

第1表 農林61号と麦類各品種の出穂期の関係

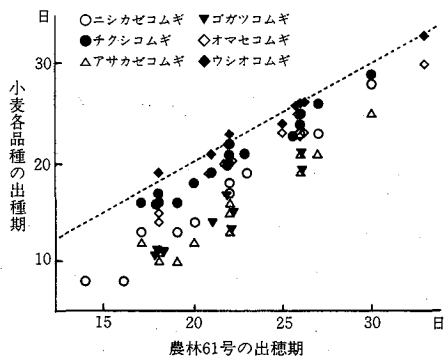
品 種	平年出穂期	相関係数	回帰式の傾き
アサカゼコムギ	4月13.7日	0.96	1.16
ゴガツコムギ	13.9	0.95	1.12
小 ニシカゼコムギ	15.9	0.98	1.27
オマセコムギ	18.2	0.98	1.03
麦 チクシコムギ	19.1	0.98	1.03
ウシオコムギ	19.9	0.99	0.98
農林61号(基準)	20.8	—	—
イシュクシラス	8.8	0.93	1.21
二条大麦 カワサイゴク	11.4	0.90	1.10
カワミズキ	13.3	0.94	1.42
あまぎ二条	14.0	0.87	1.01
ニシノゴールド	14.6	0.91	0.95



第2図 農林61号と小麦各品種の成熟期

第2表 農林61号と麦類各品種の成熟期の関係

品 種	平年成熟期	相関係数	回帰式の傾き
アサカゼコムギ	6月2.5日	0.95	0.97
ゴガツコムギ	1.6	0.96	0.99
小 ニシカゼコムギ	4.0	0.97	0.93
オマセコムギ	4.4	0.95	0.97
麦 チクシコムギ	5.9	0.97	0.87
ウシオコムギ	8.1	0.98	0.85
農林61号(基準)	7.2	—	—
イシュクシラス	5月22.4	0.93	1.32
二条大麦 カワサイゴク	24.2	0.84	1.02
カワミズキ	24.9	0.95	1.26
あまぎ二条	23.8	0.95	1.24
ニシノゴールド	20.7	0.95	1.94



第1図 農林61号と小麦各品種の出穂期